



# 『東北圏だより』

## 新室長就任にあたって

東北圏広域地方計画推進室長 安田 吾郎

（東北地方整備局 副局長）



6月21日より東北圏広域地方計画推進室長を務めております安田吾郎です。どうぞ宜しくお願い致します。

今年3月にできた東北圏広域地方計画は、今後10年間の東北圏の地域づくりの指針となるものです。この計画が実りをもたらすためには、各地域での今後の実践的な活動が欠かせません。例えば、計画のバックボーンをなす「コンパクト&ネットワーク」の考え方については、ネットワーク整備の面では高規格道路ネットワーク等の整備により着実に進んでいく一方、コンパクト化については、各地域での具体的な努力無しに、自然と進むものではありません。居住、産業、医療、教育、文化等の機能毎に集約化を図ることは、人によって利害も異なるため、その実施には苦労も伴います。この苦労を乗り越え、将来の暮らしやすい地域をつくることが我々の重要な責務です。東北圏広域地方計画推進室では、各地域での取組ができるだけ前に進むよう、お手伝いをしていければと考えています。

東北圏は、山間地が多く、人口密度が全国平均の約4割に当たる142人/km<sup>2</sup>と少ない中で、人口減少も最も早く進んでいる地域です。しかし、例えば、北欧のノルウェーは、起伏に富んだ地形の国で人口密度も16人/km<sup>2</sup>（日本の約20分の1）と少ないですが、1人当たりGDPは、EU最高の74,822ドル（日本の約2.3倍）です。ノルウェーの発展要因としては北海油田開発に加えて、都市計画に基づくコンパクトな持続可能都市を形成したことが挙げられます。首都オスロ南方の地方集落の地図を付けました。集落はまとめ、それ以外はほとんどが森林です。

東北圏においても、優れた環境を活かした暮らしやすい圏域は我々の努力により形成可能です。皆さんとともに、そのような努力を行って参りたいと思います。



▲首都オスロ南方の地方集落の地図

（出典サイト：<https://www.visitnorway.com/maps/>）

## 岩手県三陸地域の復興のその先を見据えて

### 岩手県

岩手県では、三陸地域の「復興のその先」を見据えた総合的な地域振興を図るため、平成 27 年度、政策地域部内に「三陸総合振興準備室」を設置し、推進体制の整備について検討を進めてきました。

その一環として、本年度、公益財団法人さんりく基金内に専担部署を設置、観光庁・日本版DMO（※）候補法人の登録を受け、今年の4月下旬に「三陸DMOセンター」としてスタートするとともに、7月には「観光プロデューサー」が新たに就任しました。

観光プロデューサーは、三陸地域における観光関連調査・分析に基づく地域戦略の立案、さらには営業・プロモーション活動の企画・実施等の役割を担う、いわば三陸DMOセンターの「けん引役」とも言える存在です。

3月から5月にかけて行った全国公募の結果、岩手県での着地型観光商品の造成に取り組むなど三陸沿岸地域の観光事情に精通し、首都圏での営業活動を通じて幅広いネットワークも持っていることがポイントとなり、盛岡市出身の北田耕嗣さんが採用されました。

北田さんは、「長年観光業に携わった経験を生かし、三陸のために邁進していく」と抱負を語っています。

平成 31 年に予定されているJR山田線の全線復旧やラグビーワールドカップ 2019 開催など、三陸地域が国内外から注目される機会を的確にとらえ、交流人口の拡大に向けた地域連携による取組を強化していくことが今後重要になってきます。

北田観光プロデューサーには、三陸の観光資源に関する知識を活かし、観光マーケティングによる地域戦略の策定や観光商品開発、プロモーション活動等に、中心的な役割を担っていただけるものと期待しています。

今後、岩手県として、北田さん、そしてDMOセンターを中心に復興後の三陸地域の更なる発展に向け、取り組んでいきます。



▲三陸海岸を代表する景勝地  
宮古市浄土ヶ浜



▲(仮称)釜石鵜住居復興スタジアム  
完成イメージ図

※DMO（Destination Management / Marketing Organization）：観光地域づくり推進法人

# 【手づくり郷土賞】<sup>ふるさと</sup> 個性的で魅力ある地域づくりを全国へ

東北地方整備局

全国各地において、地域の魅力や個性を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を、好事例として広く紹介することで、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目指し、「手づくり郷土賞」として表彰しています。「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され、今年度で31回目の開催となる国土交通大臣表彰です。

「手づくり郷土賞」の募集は、一般部門と大賞部門の2つの部門で募集しております。一般部門では、地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりのある地域活動が一体となった成果を対象としており、大賞部門では、これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した、社会資本又は社会資本と関わりのある地域活動が一体となった成果を対象としております。

今年度は、6月27日～9月2日の間で募集しておりますので、身近に応募できる取り組み等がございましたら、ぜひ応募をお待ちしています。東北の魅力ある地域づくりを全国に発信しましょう！

以下は、今年度の募集内容と昨年度、東北地方整備局管内から受賞した、秋田県仙北市『癒しの溪流づくり ～生保内川の自然と防災～』（NPO法人「癒しの溪流・里・まちネット」）及び、山形県長井市『最上川フットパス ～かわからまちへ、まちからかわへ～』（長井市かわまちづくり推進協議会）の取組内容です。

【手づくり郷土賞ホームページ】

<http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/B00097/K00360/tezukurifurusato/index.html>

## 平成27年度 手づくり郷土賞一般部門受賞

秋田県仙北市 NPO法人「癒しの溪流・里・まちネット」の取組



▲世代間を超えて自然とふれあいながら交流を深める参加者



▲小学生に砂防堰堤についての総合学習の実施

## 平成27年度 手づくり郷土賞一般部門受賞

山形県長井市 長井市かわまちづくり推進協議会の取組



▲イベント参加者を楽しませる渡河施設



▲四季折々の花が咲き誇る最上川フットパス沿い

### 概要

日本の各地で、地域特有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として見直し積極的に活用した、魅力ある地域づくりの事例が数多く生まれてきています。「手づくり郷土賞」は、このような地域活動によって地域の魅力や個性を生み出している良質な社会資本とそれに関わった団体のご努力を表彰するものです。また、これらの好事例を広く紹介することで、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され、平成28年度で31回目の開催となる国土交通大臣表彰です。

### 募集対象

#### 一般部門

地域の魅力や個性を生み出している、社会資本\*及びそれと関わりのある地域活動が一体となった成果  
\*原則として国土交通省が所管する社会資本で、地方公共団体等が整備・管理するものも含みます。

#### 大賞部門

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した、社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果  
※「手づくり郷土賞」を受賞した後、なお一層の活動の充実が行われるなど、継続的に魅力ある地域の実現に寄与し、他の地域のモデルとなり得るものを選定して表彰します。

### 応募方法

#### ■応募団体（各部門共通）

地域の社会資本を有効活用し、地域づくり等に取り組む活動団体が単体で、または社会資本を管理する地方公共団体（都道府県、市区町村）と共同で応募するものとします。

#### ■応募資料

応募用紙及び参考資料とその電子データ

※応募要領及び応募用紙については、国土交通省ホームページよりダウンロードしてください。  
([http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tezukuri/what\\_furusato/what\\_furusato.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tezukuri/what_furusato/what_furusato.html))

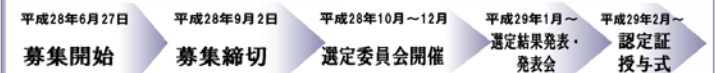
#### ■応募方法

応募資料を、募集期間内にお近くの各地方整備局等に提出してください。

提出された応募資料は各地方整備局等にて取りまとめの後、国土交通本省に提出されます。「手づくり郷土賞」の対象とならないものがあつた場合は、各地方整備局等よりその旨通知いたします。

#### ■発表会について

受賞団体決定後、東京都内において受賞団体によるプレゼンテーションなど活動の発表会（交流会）を予定しております。発表会では受賞団体のなかから各部門のグランプリを選出します。



### 問い合わせ先

#### ○各地方整備局等（応募資料提出先）

北海道開発局 開発整理部 開発調整課	TEL: 011-709-2311	札幌市北区北八条西2丁目
東北地方整備局 企画部 企画課	TEL: 022-225-2171	仙台市青葉区本町3-3-1
関東地方整備局 企画部 広域計画課	TEL: 049-600-1330	さいたま市中央区新都心2-1
北陸地方整備局 企画部 広域計画課	TEL: 025-370-6687	新潟市中央区美咲町1-1-1
北陸地方整備局 企画部 企画課	TEL: 052-453-8127	名古屋市中区三の丸2-5-1
近畿地方整備局 企画部 企画課	TEL: 06-6942-1141	大阪市中央区大手前1-5-44
中国地方整備局 企画部 広域計画課	TEL: 082-511-6120	広島市中区上八丁堀6-30
四国地方整備局 企画部 広域計画課	TEL: 087-811-8309	高松市サンポート3-33
九州地方整備局 企画部 企画課	TEL: 092-471-6331	福岡市博多区博多駅東2-10-7
沖縄総合事務局 開発建設部 建設行政課	TEL: 098-866-1908	那覇市おもろまち2-1-1

#### ○事務局

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 TEL: 03-5253-8111 東京都千代田区霞が関2-1-3

国土交通省の手づくり郷土賞ホームページにて、過去の受賞事例等をご覧ください。

(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tezukuri/>)

手づくり郷土賞 で 検索

東北圏広域地方計画推進室

「東北圏広域地方計画」は、今後概ね10年間の国土づくりの総合的、かつ基本的な方向性を示すものとして、本年3月29日に国土交通大臣決定され、着実な推進を図ることが求められております。

東北圏広域地方計画協議会では、新しい計画の将来像である震災復興を契機とした防災先進圏域の実現と、人口減少下においても自立的に発展する圏域の実現に向け、広く一般の方にこの計画を知っていただくとともに、関係団体が一致協力して、計画を強力に推進する一助としてシンポジウムを開催することといたしました。

シンポジウムでは、東北大学里見総長から基調講演をいただくほか、経済団体、行政、企業、農業、観光等の各分野で活躍されている皆さんによるパネルディスカッションを行い、東北圏の自立的発展のために何を必要があるのかを考えます。

多くの皆様のご参加をお願いいたします。

【シンポジウム開催概要】

- ◆日 時：平成28年8月18日（木）14時00分～17時30分（開場13時30分）
- ◆場 所：東北大学百周年記念会館 川内萩ホール（仙台市青葉区川内40）
- ◆主 催：東北圏広域地方計画協議会
- ◆プログラム
  - ◇挨拶 東北圏広域地方計画協議会会長 海輪 誠（一般社団法人 東北経済連合会 会長）
  - ◇東北圏広域地方計画の説明  
東北圏広域地方計画推進室
  - ◇基調講演 テーマ：「ワールドクラスへの飛躍」と「復興・新生の先導」を目指して  
里見 進 氏 東北大学総長
  - ◇パネルディスカッション  
テーマ：「東北圏の自立的発展の実現に向けて」  
コーディネーター：大滝 精一 氏 東北大学大学院 経済学研究科 教授  
パネリスト：大江 修 氏 一般社団法人 東北経済連合会 専務理事  
門脇 光浩 氏 秋田県仙北市長  
谷本 均 氏 花王株式会社 酒田工場長  
針生 信夫 氏 農業生産法人 株式会社舞台ファーム 代表取締役  
横田 純子 氏 特定非営利活動法人 素材広場 理事長

詳細は下記ホームページをご覧ください。

→<http://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/sympo/sympojiumu02.html>

※ホームページから参加申込みが出来ます。

編集後記

この夏も非常に暑い夏となっています。そうした中で、東北各地では夏祭りが盛大に開催され、大きな賑わいを見せています。また、リオ五輪が開幕し、日本選手団の活躍が連日報道されています。“あつい”夏は、しばらく続きそうですが、体調管理には十分お気をつけください。五輪観戦による睡眠不足にはご注意ください！

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp